

2015 年度  
事業計画書  
予算書



カンボジアの小学校で保健教育の授業中

  
医療を通じて、愛を世界へ。  
公益社団法人  
**日本キリスト教海外医療協力会**  
JAPAN OVERSEAS CHRISTIAN MEDICAL COOPERATIVE SERVICE

## 目 次

1. 新年度の抱負 .....	1
2. 海外諸活動 .....	2
2-1 海外派遣 .....	2
(1) バングラデシュ 山内章子ワーカー .....	2
(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー .....	3
(3) タンザニア 弓野綾ワーカー .....	4
2-2 短期ワーカー派遣 .....	4
2-3 研修生・奨学金支援 .....	4
2-4 協働プロジェクト(プロジェクト・りとり) .....	9
(1) BDP 学校保健プロジェクト バングラデシュ .....	9
(2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト タンザニア .....	9
(3) SALT(次世代のための健康と良い衛生) トライアルプロジェクト カンボジア .....	9
3. 国内諸活動 .....	10
3-1 国際保健人材育成 .....	10
3-2 東日本大震災被災者支援 .....	10
3-3 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動 .....	11
3-4 マーケティング .....	13
4. 運営会議 .....	14
4-1 社員総会 .....	14
4-2 理事会 .....	14
4-3 委員会 .....	14
4-4 評価 .....	16
5. 事務局 .....	17
6. 予算書 .....	18
収支予算書(正味財産増減ベース) .....	18
収支予算書内訳表(正味財産増減ベース) .....	21
収支予算書総括表(資金収支ベース) .....	24
公益目的事業会計 収支予算書(資金収支ベース) .....	25
法人会計 収支予算書(資金収支ベース) .....	28

## 1. 新年度の抱負

「みんなで生きられるか？」の問いに答えるために

<会長 小島 莊明>

昨年度は、JOCSにとり、使用済み切手運動50周年にあたる記念すべき年でありました。東京と大阪で行われた記念のイベントには、両会場で800名近くの支援者の皆さまのご参加がありましたが、家庭や学校、教会、さらには会社あるいは公的機関や施設において、使用済み切手運動が子どもたちからご高齢の方々にまでいたる幅広いご支援により、半世紀にもわたって続けられてまいりましたことは、まさに神がともに働いてくださった大きな恵みによることと感じさせられました。

その一方で、高齢化社会の波を受けて、会員数は徐々に減少してきています。新年度には、教会やミッションスクールなどへの積極的な働きかけなど、真剣に会員増強運動に取り組む必要があります。理事会の中で、「マーケティング」とか「ブランディング」など、およそ保健医療の分野ではこれまで考えられても来なかったような事柄が議論されるようになったことも、JOCSの存在を世に問う危機感の現れとも言えると思います。

さらに、公益社団法人として、日本において、また世界において、JOCSのなすべき働きは何かがいま問われているとも思われます。いみじくも、大阪における使用済み切手運動50周年記念のイベントにおいて、谷川俊太郎さんが末盛千枝子さんとの対談を通して鋭く投げかけてくださったように、この混沌とした日本と世界の現状にあって、「みんなで生きられるか？」の問いの前に私どもは立たされています。

JOCSは、これまでアジアやアフリカにおいて、貧困や障がい、あるいは病気のゆえに差別され小さくされて、困難な状況の中におかれている人々と「ともに生きる」世界を目指して歩んでまいりましたが、むしろそれらの人々との出会いを通して、この争いの絶えない地球上で平和に生きる道があることを教えられていることも確かな事実です。岩本ワーカーの働くラルシェ マイメンシンのコミュニティにおいて、異なる宗教をもつ人々が笑顔で平和に輝いて生きる姿がその一例であります。そうであるならば、そのような生き方のあることを、日本の社会にもっと強く訴えかけていく必要があるのではないのでしょうか。

そして、新年度には、谷川さんの問いを私たち自身の心に反芻しつつ、①タンザニアに新ワーカーを派遣すること、②プロジェクト・りとの新展開をはかること、③アジア・アフリカ各国における保健医療分野での人材育成のため奨学金支援を継続することなどを通して、もしもこれらのことが神のみ心にかなうことであるなら神ご自身が「共に働いて」くださり（ローマの信徒への手紙8章28節）、「ともに生きる」ことの「確かにできる」世界を実現させてくださると信じて歩みたいと願うものです。

## 2. 海外諸活動

### [2-1] 海外派遣

今年度は、2期目を終えてバングラデシュから帰国している山内章子ワーカーが、各地での報告会を終えてから同地に再赴任する。これまで育ててきた人材のフォローアップトレーニングに加えて、PCC (Protibondhi Community Centre) をカウンターパートとして人材育成と技術指導を進める。

また、岩本直美ワーカーは5月までの予定であった任期を延長し、派遣先のラルシュ・マイメンシンの5ヵ年計画が満了する2016年2月までコミュニティ・リーダーの職務を継続する。

弓野綾ワーカーは事前研修を終え、4月からタンザニアのタボラ大司教区へと派遣される。語学研修を終えた後、St. Anne's Mission Hospital (旧イプリヘルスセンター) での活動と大司教区保健事務所での活動を行う予定にしている。

#### (1) バングラデシュ 山内章子ワーカー (理学療法士)

派遣先：PCC (Protibondhi Community Centre) (障がい者センター)

任期：2015年6月～2018年6月

3期目赴任は2015年6月24日から3年間。赴任後の計画は以下のとおり。

#### ①PCC (Protibondhi Community Centre) (障がい者センター)

- ・教育活動を中心とする。主に現スタッフの知識の向上、新スタッフの技術教育
- ・女性クラブのキャパシティ・ビルディングのための個別調査

#### ②Kailakuri Clinic (カイラクリ・クリニック)

- ・理学療法担当者の教育
- ・理学療法基本手技の習得
- ・基本的な疾患の知識の習得

#### ③KPKS (Kalibari Protibondhi Koran Shomiti) (カリバリ障がい者協会)

- ・理学療法担当者の教育
- ・理学療法基本手技の習得
- ・基本的な疾患の知識の習得

#### ④CPD (Centre for People of Disabilities) (障がい者センター)

- ・1期目、2期目で育成した理学療法技術者のフォローアップ、及び、スキルアップ：年に3回を予定

#### ⑤Bhutahara Mission (ブタハラミッション)

- ・1期目、2期目で育成した理学療法技術者のフォローアップ
- ・障がい者グループ活動の開始：年に4回を予定

(2) バングラデシュ 岩本直美ワーカー (看護師)

派遣先：Taizé Community (L'Arche Mymensingh)

(テゼ共同体) (ラルシュ マイメンシン)

任期：2012年5月～2016年2月

①ラルシュの家の建築と土地購入、及びそれに伴う資金調達活動への協力

ラルシュ マイメンシンの次の活動について協力を行う。

- ・マイメンシン市当局より、ラルシュの家(2階建)建築についての許可を得る。同時に建築会社を選定し建築を始める。
- ・建築に必要な土地を追加購入する手続きを進める。
- ・必要な資金調達活動を行う。

②理事会の強化

国際ラルシュ連盟の協力を得て、トラスト理事会の質の向上を図る。理事たちに、職責について再度理解を促し、理事養成プログラムに送ることによって動機付けを図る。年度内に3名の理事の増員を図る。国際ラルシュ連盟から終生メンバーとして承認を受けるためには、理事会の強化が必要条件であるとの共通認識をもち、その方向で努力する。

③コミュニティリーダーの職責の分担

覚え書きの中間評価で課題の一つであったコミュニティリーダーの職務過多について、それがバランスのとれたものとなるよう整理し、国際ラルシュ連盟、理事会及びコミュニティメンバー等の支援を仰ぎ、職務の軽減を図る。

④コミュニティの覚え書き評価及び次期覚え書きの作成

国際ラルシュ連盟、理事会、そしてコミュニティメンバー全体でラルシュ マイメンシンの5年の覚え書き(2016年2月満了)の最終評価を行い、続いて次期覚え書き(5年)を作成する。この過程に、JOCSや有識者にも何らかの形で参画していただき、覚え書きの概要を分かち合えるよう働きかける。

⑤コミュニティ生活及びアシスタントの質の向上

コミュニティの暮らしに関する細則等について文書化し、メンバーたちの共通理解を促す。地域やコミュニティの状況の変化に添う形で、三つの現行プログラム(子どものデイケア、成人のデイケアと成人の作業所)のあり方や内容について評価し修正を図る。アシスタントたちに、役職や個性に応じ職責の程度や内容を漸増し一人ひとりの成長を促す。心身の障がいではない理由で社会の隅に置かれている人たちとの連帯を図る活動をコミュニティ内で促し、ラルシュの深いビジョンをアシスタントたちが良く認識できるようにする。

## 2. 海外諸活動

### (3) タンザニア 弓野綾ワーカー (医師)

派遣先：Archdiocese of Tabora (タボラ大司教区保健事務所)、  
St. Anne's Mission Hospital (旧イプリヘルセンター)

任期：2015年4月－2018年3月

4月に赴任し、最初はダルエスサラームでスワヒリ語の語学研修を行う。その後、タボラに移動し、St. Anne's Mission Hospital での活動と大司教区保健事務所での活動を行う。

St. Anne's Mission Hospital では現場指導を通して診療技術を伝え、人材を育成していく。

大司教区保健事務所では保健医療セミナーの開催や保健事務所傘下の10の保健医療施設の巡回指導に協力する。JOCS は当保健事務所と診療統計分析能力強化プロジェクトを2013年9月から実施しており、その協力も行う。

#### [2-2] 短期ワーカー派遣

短期ワーカーとして乾眞理子医師をバングラデシュ、タンガイル県のカイラクリ・ヘルスケア・プロジェクトクリニックに3ヵ月間派遣する。

また去年度改定された短期ワーカーの規定に基づき、ニーズを継続して探り、必要に応じて派遣を検討する。

#### [2-3] 研修生・奨学金支援

2015年度は、インドネシア4名、ネパール15名、バングラデシュ4名、インド3名、ウガンダ21名、タンザニア9名の6ヵ国合計56名を支援（詳細は2015年度研修生一覧（5～8ページ）を参照）のほか、2015年度に承認する奨学生（2015年9月頃選考・承認予定）を支援する。

##### 一覧表注

\*職業は、奨学金申請時点のもの

\*GKST : Geredja Kristen Sulawesi Tengah (中部スラウェシキリスト教会)

\*GMIM : Geredja Masehi Indjili Minahasa (ミナハサ福音教会)

\*ICAHS : Indonesia Christian Association for Health Service (インドネシア・キリスト教保健サービス協会)

\*HDCS : Human Development and Community Services (ネパールのキリスト教系 NGO)

\*PIME : Pontificio Istituto Mission Estere (カトリック・ミラノ外国宣教会)

\*UPMB : Uganda Protestant Medical Bureau (ウガンダ・プロテスタント医療連盟)

\*TAHO : Tabora Archdiocesan Health office

## インドネシア

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
看護師	女	31	STIFA Pelita Mas, Palu	薬学	2011年6月～2015年8月
事務	女	21	STIK, Indonesia Jaya Palu	栄養学	2013年9月～2016年9月
看護師	女	23	Tarumanagara, Jakarta	医学	2013年1月～2018年1月
看護師	女	26	Stikes Husada Mandiri Poso	助産学	2014年7月～2017年7月

## ネパール

医師	男	28	National Academy of Medical Science又はKathmandu University	整形外科学又は皮膚科学	2015年4月～2018年4月
看護師	女	27	Nagarik College of Health Science	看護学修士	2012年12月～2015年10月
無職	男	23	Asian College of Medical Science & Technology P. LTD	臨床検査	2012年12月～2015年12月
村落保健員	男	33	College of Allied Health Science	ヘルスケアマネジメント	2013年7月～2016年7月
外来主任	男	35	Nepal Commerce Campus, Tribhuvan University	経営学	2013年8月～2015年8月
看護助産師助手	女	28	Kamali Academy of Health Sciences	看護学修士	2014年10月～2017年10月
検査技師助手	男	37	College of Allied Health Science	臨床検査	2013年7月～2016年7月
准助産師	女	31	Kamali Academy of Health Sciences	看護学	2014年9月～2017年9月
看護講師助手	女	36	Krupanidhi College of Nursing	看護学修士	2014年9月～2016年9月
看護講師助手	女	37	Faran College of Nursing	看護学修士	2013年6月～2015年6月
看護講師助手	女	37	Sanjeevani College of Medical Sciences	看護学	2014年1月～2017年1月
薬剤師助手	男	38	Limbini Institute of Technical Sciences	薬学	2013年9月～2016年9月

2. 海外諸活動

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
看護助産師助手	女	48	Tansen Nursing School	看護学	2013年11月 ~ 2016年11月
看護師	女	30	B & B Medical Institute	看護学修士	2013年3月 ~ 2016年3月
検査技師	男	44	Chitwan School of Medial Science	医用画像工学	2012年9月 ~ 2016年8月

バングラデシユ

無職	女	21	Christian Hospital Chandraghona	看護・助産学	2012年1月 ~ 2015年7月
無職	女	20	Nursing Institute Shishu Sasthya Foundation Hospital	看護・助産学	2014年2月 ~ 2017年2月
無職	女	20	Holy Family Red Crescent Medical Hospital	看護・助産学	2013年2月 ~ 2016年2月
無職	女	20	Christian Mission Hospital, Rajshahi	看護・助産学	2014年2月 ~ 2017年2月

インド

学生	女	21	Christian Medical College	医学	2011年7月 ~ 2016年1月
看護師	女	26	Christian Medical College, College of Nursing	看護学	2014年8月 ~ 2016年8月
学生	女	18	CSI College of Dental Science and Research	歯学	2013年9月 ~ 2015年9月

ウガンダ

准看護師	男	29	International Health Sciences University	臨床医学・公衆衛生	2012年8月 ~ 2015年8月
准看護師	女	25	Uganda Nursing School Bwindi	助産学	2015年5月 ~ 2016年11月
看護師	男	23	Kampala International University	臨床医学・公衆衛生	2013年8月 ~ 2016年8月
准看護師	女	28	Uganda Nursing School Bwindi	助産学	2015年5月 ~ 2016年11月
准助産師	女	21	Uganda Nursing School Bwindi	助産学	2015年5月 ~ 2016年11月



職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
看護師手伝い	女	25	Kuluba School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年5月～2015年11月
医師長	女	38	Makerere University College of Health Sciences School of Medicine	小児医学・小児看護	2013年8月～2016年8月
ヘルスセンター責任者	男	29	Kampala International University	医学	2012年9月～2018年6月
准看護師	女	38	Mulago School of Nursing and Midwifery	看護学	2013年5月～2015年5月
看護師	女	40	International Health Sciences University	看護学	2013年9月～2016年9月
准助産師	女	28	Soroti School of Registered Comprehensive Nursing	助産学	2014年5月～2015年11月
暗室助手	男	25	Kampala International University	臨床医学・公衆衛生	2013年8月～2016年8月
看護助手	男	28	Ngora Hospital School of Nursing and Midwifery	看護学	2014年11月～2017年5月
准看護師	女	27	Mulago School of Nursing and Midwifery	助産学	2014年5月～2015年11月
准助産師	女	32	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2013年11月～2015年5月
看護師	女	32	International Health Sciences University	看護学	2012年8月～2015年8月
薬剤師	男	28	Kampala International University	薬学	2014年8月～2018年2月
准看護師	女	31	Mengo School of Nursing and Midwifery	助産学	2014年5月～2015年11月
看護助手	女	23	Jerusalem Institute of Science and Technology	助産学	2015年5月～2017年11月
医師	女	28	Uganda Institute of Allied Health and Management Sciences	麻酔学	2013年9月～2015年9月
ヘルスセンター責任者	男	27	Gulu Institute of Health Sciences	臨床医学・公衆衛生	2012年8月～2015年8月
タンザニア					
看護師	女	46	Kampala International University (Uganda)	看護学	2014年8月～2017年9月

2. 海外諸活動

職業	性別	年齢	研修機関	研修内容	研修期間
清掃員兼検査助手	女	29	Ruaha University College, Iringa	臨床検査	2014年10月 ~ 2016年10月
神父、カウンセラー	男	47	Sengerema Clinical Officers Training Centre	医学	2014年9月 ~ 2017年9月
看護助手	男	25	Ishimila Nursing School	看護学	2014年10月 ~ 2016年10月
看護助手	女	20	Nkinga Institute of Health Sciences	看護学	2014年10月 ~ 2017年10月
医師補	男	28	University of Dodoma	医学	2014年10月 ~ 2019年10月
看護助手	女	27	St. Aggrey College of Health Sciences	看護・助産学	2014年4月 ~ 2016年4月
医師補	男	30	International Medical and Technological University	医学	2012年8月 ~ 2017年8月
受付係	男	20	Catholic University of Health and Allied Sciences	放射線診断	2014年10月 ~ 2017年10月

## [2-4] 協働プロジェクト（プロジェクト・りとる）

### (1) BDP 学校保健教育プロジェクト（バングラデシュ）

プロジェクト期間：2015年4月～2016年3月

相手団体：BDP（Basic Development Partners）

本プロジェクトは、5年間（2010年4月～2015年3月）のプロジェクト期間を終了したが、今年度は前年度の終了時評価で決められた延長フェーズ（1年間）として実施する。

2015年度は、保健教育の授業、救急箱の補充管理、トイレ・井戸の維持管理、環境整備のための啓発活動を継続実施し、また、担当教員への研修会を2回、思春期女子への講習を1回、生徒たちの母親向け講習会を2回、生徒の身体測定を2回実施する。また、ヘルスフェスティバル（健康をテーマにしたイベント）をゴミゼロデー（5月30日）と世界手洗いデー（10月15日）に実施する。終了時評価を2016年2月頃にBDPとJOCSで実施する。

### (2) TAHO 診療統計分析能力強化プロジェクト（タンザニア）

プロジェクト期間：2013年9月～2016年8月

相手団体：TAHO（Tabora Archdioces Health Office）

2015年度、TAHOは4、7、10、1月にスーパービジョンを行い、セミナーを年に1回行う予定である。スーパービジョンやセミナー終了後には、TAHOからJOCSに報告書が提出される。JOCSでは5、9、1月に事業のモニタリングと協議を行う。これらの報告書、モニタリングおよび協議の結果を受け、指導方法の改定やエクセル記入表の使い方の指導などを行っていく予定である。

### (3) SALT (Sokkaphheap Anamai La-or sumrup samai Thmey = 次世代のための健康と良い衛生) トライアルプロジェクト（カンボジア）

プロジェクト期間：2014年10月～2015年9月

相手団体：Apostolic Prefecture of Battambang

引き続き、4つの地域（クダオ、プノンクプア、タヘン、ドン・ボスコ）にある小学校5校と、中学校1校を対象に、各学校で週1回、バタンバン司教区のヘルスセンターのスタッフが、健康教育を実施する。JOCSでは、1年間のプロジェクトの試験的期間に、2年目以降の継続に向けた基礎調査の実施、専門家によるカリキュラムの精査を、現地の担当と検討、実施する。試験的期間終了時評価を2015年9月頃に実施する。

### 3. 国内諸活動

#### [3-1] 国際保健人材育成

今年度も海外での保健医療協力に興味がある人向けの学ぶ機会を下記のとおり提供する。

- ・ 海外保健医療勉強会
- ・ フィールドセミナー

#### [3-2] 東日本大震災被災者支援

2015年度末の3月で、東日本大震災から5年を迎える。JOCSでは震災発生後から地元団体と協力し、東日本大震災被災者支援を行ってきた。2015年度も継続する予定である。

##### (1) 岩手県釜石市（協力先：特定非営利活動法人カリタス釜石）

###### ①看護チーム（3ヵ月ごとの予定）と看護師の派遣（毎月の予定）

看護チームを定期的に派遣し、仮設住宅や孤立集落の在宅被災者のための訪問ケアや「カリタス釜石」の傾聴活動へサポートを行う。今年度も、これまでどおり約1週間ずつ年4回派遣予定である。

また同時に看護師1名をほぼ毎月派遣し、カリタス釜石の活動に協力を行う。

##### (2) 福島県内児童養護施設

「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」と連携して活動する。福島県内の児童養護施設に入所している子どもたちの健康状態を把握し、放射能による健康被害の早期発見と早期治療を行うための活動を支援する。

###### ①個人被ばく線量測定サービス（クイクセルバッチ）着用

福島市の「青葉学園」及び「福島愛育園」で、入所している子ども及び職員の着用を支援する。年齢が低い子どもはバッチの着用が難しい状態であるため、子どもと一緒に生活をする職員が着用し、子どもの外部被ばく量を推測する。

###### ②超音波診断装置による甲状腺検査

1年毎に甲状腺検査を行うことにより、甲状腺の異変の早期発見・早期治療に役立てることを目的に、児童養護施設に医療従事者を派遣し、子ども及び希望する職員の検査を実施する。いわき育英舎、青葉学園、福島愛育園で実施する予定である。

###### ③尿中セシウム検査

内部被ばくのモニタリングとして、各児童養護施設で尿中セシウムの検査が行われているが、2014年度の検査結果から、検査の継続が必要と考えられる子ども及び希望する職員の検査を支援する。

###### ④青葉学園食品放射能測定機校正

当会が2012年度に測定室設置を支援した青葉学園の食品放射能測定機の校正を支援する。

### 【3-3】 国内啓発及び国際協力に関する協働を育む活動

日本国内において、世界の困難な環境におかれた人々の状況を伝え、国際協力活動に対する支援及び協働の姿勢を育む機会の提供として、以下の活動を行う。

#### (1) 使用済み切手運動

2014年度までは、本運動のうち啓発・体験活動については公益目的事業として実施し、使用済み切手等の換金作業は収益事業として実施していた。収益事業として実施していた作業を、本年度から公益目的事業に統合する。子どもから高齢者まで誰もが気軽に参加できる国際協力活動として、使用済み切手等収集、整理、ボランティア体験、広報協力等、本運動のすべての過程において、より多くの方に参加してもらえるよう、啓発機会の提供充実に努めていく。使用済み切手運動以外の国内啓発活動と連携し、相乗効果が生まれるよう取り組む。

##### ・ 広報チラシ作成

使用済み切手、書き損じハガキ、外国コイン収集と国際協力についてわかりやすく説明したチラシを作成し、希望者に配布する。

##### ・ プレスリリース強化

地方新聞、地域のミニコミ誌等に、ワーカー活動報告会とあわせて使用済み切手収集による国際協力活動を掲載してもらえるよう働きかける。

##### ・ 各地のスタンプショウへの参加

スタンプショウ 2015	2015年4月24日～4月26日(都立産業貿易センター台東館)
広島スタンプショウ	2015年6月27日～28日(予定)
高知スタンプショウ	2015年9月

##### ・ キリスト教会への周知

使用済み切手・外国コイン・書き損じハガキの収集キャンペーンに、教会が地域住民と共に参加できるよう、チラシ配布による広報を行う。

##### ・ 送料負担キャンペーン

企業や団体が取り組みやすくするため、5kg以上の使用済み切手の送付に関しては、半年間着払いで受けることとする。(2015年4月～9月)

#### (2) ワーカー活動報告会

バングラデシュから帰国した山内章子ワーカーの活動報告会を5月まで開催する。障がいのある人と共に生きることについて、参加者に考えてもらう機会を提供する。

#### (3) 地区 JOCS 活動支援

仙台・足利・町田・京都・大阪・神戸・芦屋・播州・四国高知各地区において、支援者グループによる地域のイベント出店やチャリティコンサートなどの催しが開催される

### 3. 国内諸活動

予定である。各地区の催しへの帰国ワーカー派遣等の支援を行う。

#### (4) 講師派遣プログラム

学校、幼稚園、社会福祉協議会、教会等、各団体の希望に沿った講演ができる講師を派遣する。特に、子ども向けプログラムの充実を目指し、学校や幼稚園からの依頼に対しては、先方の教師と相談し、できるだけ参加型のワークショップを提供する。学校が主催するキャンプや保護者参加のイベント等への講師派遣依頼にも対応できるプログラムを用意し、参加者の意見を聞きながら改善していく。

#### (5) 事務局見学受入

学校、幼稚園、社会福祉協議会、地域や企業のボランティアグループ等の希望に応じ、アジア・アフリカの保健医療事情や当会の活動、使用済み切手運動について学ぶ機会を提供する。

#### (6) 視聴覚資料

希望者に DVD、写真パネルの貸出しを行う。特に、JOCS の支援を受けて地域の人々のために奮闘している現地の保健医療従事者の活動を紹介した DVD「心をひらいて」及び「カシ・ナマ・ジュパン」を多くの方に紹介する。

#### (7) 東日本大震災被災地訪問（仙台・石巻）

JOCS が支援した日本キリスト教団東北教区被災者支援センター・エマオの活動地を訪問するツアーを実施する。

#### (8) バザー

関西 JOCS バザー委員会の主催による第 21 回「JOCS 関西バザー」の開催を支援する。5 月 9 日に大阪聖パウロ教会で開催予定である。

#### (9) JOCS のつどい（仮称）

支援者への報告に加えて、これまで JOCS の活動を知らなかった方に対して、活動の目的や成果を示し、理解と賛同を得るためのイベントを開催する。東京及び大阪で 1 回ずつ開催する。

#### (10) ネットワーク活動

国際協力 NGO センター (JANIC)、関西 NGO 協議会、障害分野 NGO 連絡会 (JANNET)、カンボジア市民フォーラム、開発教育協会、公益法人に関する NGO 連絡会のメンバーとして、情報交換や、一団体のみでは困難な社会への働きかけを行っていく。

### 【3-4】 マーケティング

2014年度には広報の専門家の指導、助言を得て理事・監事・職員全員が行ったブランディングによって、団体コンセプトを明確にし、コミュニケーション基盤の再構築を行った。それにもとづき、広報活動、ファンレイジングを実施する。支援者への説明責任を果たすとともに、より多くの人々から理解と賛同を得られるよう努めていく。

#### (1) 会報誌「みんなで生きる」の企画・編集

- ・2、4、6、8、10、12月と、子ども号を11月に発行する。16ページを基本とし、掲載内容が多い場合には20ページとする。
- ・活動を分かりやすく伝える。
- ・現地で支援を受けた人々の声を紹介する。
- ・読者のアンケートや質問を大切に読者との交流を図り、誌面作りに活かす。
- ・特に子ども向け号・ページを充実させる。

#### (2) 年次報告書

支援者への説明責任を果たし、継続支援を得るため、前年度の年次報告書アンケートの意見を参考に改善を加え作成する。現地で支援を受けた人々からのメッセージを掲載し、支援者が活動に参画している実感を得られるような報告書とする。会報誌「みんなで生きる」6・7月号と夏期募金の趣意書と合わせて、会員・寄付者に送付する。

#### (3) ホームページ

検索エンジン対策として、検索結果ページにおけるクリック率の向上や、活動内容をより分かりやすく紹介することが望まれるため、コンテンツの修正や追加を行う。具体的には以下のページの改善を計画している。

- ・「JOCSとは」「団体概要」「活動紹介」
- ・ワーカー紹介ページのリニューアル、動画による紹介など

#### (4) 「JOCS フォーラム」の発行

ワーカー報告書や海外保健医療勉強会の講演原稿を掲載し、保健医療分野の専門的な関心に応えられ、記録として役立つような冊子とする。総会の資料と共に社員会員へ送付する。

#### (5) ボランティアテックの活動

年に2回ミーティングを開催し、JOCSのイベント等の撮影・会報誌等のイラストなど広報関係に協力し、広報資料の整理、充実に努める。

#### (6) 雑誌広告

### 3. 国内諸活動

キリスト教雑誌「百万人の福音」「信徒の友」に、通常 1/3 縦サイズ、1 月号のみ全頁の広告を掲載する。また広告だけでなく、JOCS の活動などを記事として取りあげてもらえるよう働きかける。

#### (7) 会員マーケティング

ワーカー報告会を新入会の最大の機会とし、2015 年 4 月から 5 月までの報告会で 40 人の新入会を目指す。また、会員の継続率を向上させるため、「会費納入のお願い」「領収証」の送付時等に、より細やかなコミュニケーションに努める。

#### (8) 募金活動

2015 年 6 月に夏期募金趣意書、11 月に冬期募金趣意書を支援者に送付する。趣意書には、寄付が現地で困難な状況にある人々のいのちと健康をまもるために役立っていることが実感できるよう、事例を掲載する。冬期募金趣意書は、使用済み切手協力者にも発送する。その他、各地でのイベント開催時に支援を呼びかけていく。

#### (9) 遺贈マーケティング

公益法人に関する NGO 連絡会遺贈分科会の 7 団体で、遺贈や相続財産の寄付に関心のある方向けに共同のパンフレットを作成する。また、共同でのセミナー開催や専門家との連携についても検討していく。

## 4. 運営会議

### [4-1] 社員総会

第 54 回定時社員総会を、中野サンプラザにて、2015 年 6 月 13 日（土）に開催する。

### [4-2] 理事会

今年度は年 7 回開催する予定。今年度の理事ならびに監事は次のとおり。

理事：小島莊明（会長）、大友宣（常務理事）、植松功、畑野研太郎、榛木恵子、  
東岡牧、平本実、眞鍋まり、森田隆（事務局長・海外事業部長）

監事：辻本嘉助、渡部芳彦

なお、2015 年 6 月 13 日の定時社員総会終結をもって、小島莊明が会長、理事を退任し、畑野研太郎が会長に就任する予定である。

新たな理事候補者は次のとおり。2015 年 6 月 13 日（土）定時社員総会にて選任予定である。

土居弘幸、名取智子

### [4-3] 委員会



<関西地区活動委員会>

委員長：船戸正久

委員：宇山進、大谷透、彼谷廣子、加輪上敏彦、酒井照子、島田恒、諏訪恵子、中村満子、畑野めぐみ、和田浩

監事：辻本嘉助 理事：榛木恵子

- (1) 委員会は2ヵ月に一度の頻度で、JOCS 関西事務局にて開催予定。各地区 JOCS の活動報告など情報交換を行う。
- (2) バザーは5月9日(土)大阪聖パウロ教会にて開催予定。今回で第21回目のバザーとなる。
- (3) 「関西 JOCS2015」を開催する。関西地域の会員への活動報告に加えて、これまで JOCS を知らなかった方からも活動への理解と賛同を得ることを目的にし、単にイベント参加にとどまらず、より JOCS に協力していただけるような企画を立案実行する。

<研修生・奨学金委員会>

委員長：柳澤理子

委員：小宅泰郎、諏訪恵子、細谷たき子、宮崎雅、山崎真由美

(1) 奨学金支給対象者の決定

選考を年1回行う。JOCS海外研修生奨学金規定とJOCSの5ヵ年計画2013に則り、今後も地域の保健医療向上のために草の根レベルで尽力すると思われる奨学生を優先し、現地のニーズに適切に応えられるような選考を行う。

(2) フォローアップ

今年度は、インドの奨学金支給者へのインタビューや奨学生の所属団体との話し合いを行う。それにより奨学金の効果を評価すると同時に、所属団体の方向性やその地域の特徴などを知ることで今後重視すべき職種・地域などを探る。

(3) 奨学金活動の広報

引き続き会報、募金趣意書、ホームページなどで、より積極的に奨学金活動を支援者にアピールする。また、より効果的な広報資料を入手するために昨年見直した奨学生のレポートフォームについて、必要があればさらに改訂を行う。

<財務委員会>

委員長：畑野研太郎

委員：佐藤光、中嶋裕一

委員会では、毎年度予算案を作成し、会長及び常務理事に提出している。予算の適切な執行を、今年度も確認していく。JOCSの財政状況を常に把握し、健全かつ安定して財務運営が行えるよう、財務の立場から理事会、事務局に提言を行う。アジアやアフリカから求められる活動を拡大していくため、収入を増やすことを常に念頭において努力する。

#### 4. 運営会議

また、引き続き財務の透明性を維持し、支援者や関係機関、行政庁への説明責任を果たしていく。支援者の皆様の声を聞きながら、分かりやすい報告を心がけていく。

#### 〔4－4〕 評価

ワーカー派遣後 1 年毎に行う自記式アンケートを次のとおり行う。

- ・弓野綾ワーカー 1 年目 2016 年 3 月
- ・岩本直美ワーカー 3 年目 2015 年 5 月

## 5. 事務局

<事務局長・海外事業部長 森田隆>

今年度より事務局長の職を仰せつかりました。今後のご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

さて、2013年より開始した5ヵ年計画2013の3年目にあたる今年度は会の目的事業であるワーカー派遣事業、奨学金支援事業、協働プロジェクト事業のそれぞれに、目に見える変化が出始める年になります。また、国内においても支援者を増やすための新しい試みを実施されていく年となります。

変化の年となる今年度は事務局長と海外事業部長の職が兼任となります。そして、事業の下支えをするマーケティング部と管理部を事務局次長が管掌します。協働プロジェクトと奨学金事業の活動がより活発になり、各種委員会がタスクと呼ばれる事務局主導の業務へと様変わりをするなど、事務局の責任が増大してきています。

5ヵ年計画の目標実現と、それを通じた会の使命への邁進のために、事務局スタッフも日々研鑽していく所存です。

<スタッフ>

事務局長・海外事業部長 森田隆

事務局次長・マーケティング部長・管理部長 名取智子

東京事務局 大久保奈緒、小池宏美、高橋淳子、服部由起、山中信、  
山本美穂子（6月～）

関西事務局 渋谷理香、西村卓

（育児休職：森田真実子）